

17世紀フランス演劇史研究ノート

——1603年アンジェ：ある劇団協約文書をめぐって

戸口民也

昨年（1988年）の夏、学生の語学研修の引率でフランスを訪れる機会をえた。滞在中、アンジェとパリの古文書館で演劇史関係の文書資料をいくつか閲覧し、コピーやマイクロフィルムをとることができたが、その中には従来の研究を修正する手掛りとなるものが含まれている。今回はそのうちのひとつについて述べてみたい。

今回取り上げるのは、アンジェ市にあるメヌ・エ・ロワール県立古文書館 Archives départementales de Maine-et-Loire (106, rue de Frémur, ANGERS) に収められている次の文書である。

文書の日付…… 1603年8月19日

内 容…… 「国王の俳優」 comédiens du Roi を名乗る役者たちによる劇団協約

文書の型…… A3サイズの紙1枚 二つ折り4ページ

整理番号…… 5E5, 93

なお、この文書の閲覧、コピー、解読上の誤りの訂正（後述するように、この文書はすでに1933年にエミール・パスキエによって発見され、転写、公表されていた）に関しては、すべて同古文書館のサラザン Sarazin 氏のお世話になった。ここにその旨を記してお礼申し上げます。

この文書に最初に注目したのはエミール・パスキエ⁽¹⁾である。彼は1933年に、公証人が作成した文書の収集、整理、保存の必要性を訴えた論文を発表し、あわせてこの文書を含む2～3の文書・資料を例として補遺にあげた。

パスキエ自身は演劇史の専門家ではなく、この文書も参考例として取り上げたにすぎないようだ。その際、パスキエは文書の解読をジャック・ルヴロンに依頼している⁽²⁾。ルヴロンは当時はメヌ・エ・ロワール県の古文書保管主任だったようだが⁽³⁾、のちにこの文書をふまえて《国王の俳優の起源》と題する論文を『メルキュール・ド・フランス』（1949年1月1日号）に発表する⁽⁴⁾。

しかし、あとで詳しく述べるように、ルヴロンの文書解読にはいくつか大きな誤りがあり、『メルキュール・ド・フランス』に掲載された上記論文についての書評のなかでレーモン・ルベークはいくつかの疑問と、読み方の訂正を示唆する⁽⁵⁾。

ルベグはルヴロンから原資料を借りて読んでいる⁽⁶⁾。しかしルベグ自身が認めているように、この文書は「読み取りにくく」⁽⁷⁾、一部に解読しきれない個所が残った。とはいえ、さすがに演劇史の専門家だけあって、俳優の名前に関する個所（ルヴロンの読み誤りもここに集中していた）については、的確な訂正が施されている。以下、両者を比較検討してみることにしよう。

パスキエの論文の補遺（＝ルヴロンの解読）では、協約書に記されている俳優の名前は次のようになっている。（図版Ⅰにあげた文書の第1ページを参照。なお下線部は解読上問題ありと考えられる部分である。詳しくは後で述べる。）

...Jacques Robineau comédien, de la Bretonnière, Fleury, Jacault comédiens,
Montfleury et Collombe Vesnière sa femme, Danyel du Gué comédiens, la Chesnau et
Léonard Dallembourg, Claude Piton sa femme, tous comédiens ordinaires du Roy...⁽⁸⁾

この読み方でゆくと、俳優たちは総勢10人となる。わかりやすくリストにすれば次のようになるのだろう。

- | | |
|---------------------|-----------------------|
| 1 Jacques Robineau | 6 Collombe Vesnière |
| 2 de la Bretonnière | 7 Danyel du Gué |
| 3 Fleury | 8 La Chesnau |
| 4 Jacault | 9 Léonard Dallembourg |
| 5 Montfleury | 10 Claude Piton |

実際にルヴロンは『メルキュール・ド・フランス』に掲載した論文の中で「10人ほどの俳優」*une dizaine de comédiens* とか、「全部で男性7名、女性3名」*en tout sept hommes et trois femmes* などと述べている⁽⁹⁾。しかし、その10人が具体的に誰と誰なのかとなると、ルヴロンは必ずしも明瞭に示しておらず、次のような曖昧な表現ですませている。

Il y avait là Robineau, La Bretonnière, du Gué, d'Alembourg, Jacault, Colombe Venière et Claude Piton, en tout sept hommes et trois femmes dirigés visiblement par un certain Montfleury que tous reconnaissaient comme le maître de la troupe⁽¹⁰⁾.

これでは単純に足算をしても人数があわない。例えば、ルヴロンの読み方からするなら Fleury, du Gué, La Chesnau の三つの名前は当然それぞれ一人分として数えあげることになるはずなのだが、何故か言い落としている。また「3人の女性」ということだが、Collombe Vesnière と Claude Piton の二人が女性であるのは勿論だとしても、残るもう一人が誰なのか、ルヴロンは特定していない。上のリストの7番目の La Chesnau を女性と考えたのだろうか？

これに対してレーモン・ルベグは、俳優たちの数は6人であり、それぞれの名前は次のように読みかえるべきであろうと指摘する。

Nos six comédiens étaient quatre hommes et deux femmes mariées. Voici leurs noms, dans l'ordre où ils sont mentionnés sur l'acte: Jacques Robineau, sieur de la

Brettonnière, Fleury Jacquault, sieur de Montfleury, sa femme Colombe Veniere, Daniel du Gué, sieur de la Chesnaie, Bernard Dalanbour, et Claude Piton, femme de Du Gué (ou de Dalanbour) ⁽¹⁾ .

ルベークの読み方は、いくつかの点を除いて基本的には正しい。ルベークの読み方をリストの形で表わすと、次のとおりである（下線部はコメントもしくは訂正の必要ありと考えられるところ）。

1. Jacques Robineau, sieur de la Brettonnière
2. Fleury Jacquault, sieur de Montfleury
3. Colombe Veniere ^(a), femme de Fleury Jacquault
4. Daniel du Gué ^(b), sieur de la Chesnaie
5. Bernard ^(c) Dalanbour
6. Claude Piton, femme de Du Gué (ou de Dalanbour ^(d))

さて、ルベークの読み方について、私が留保をつけた点をひとつずつあげると以下のとおりである。

(a) Colombe *Veniere* の姓は、本人の署名からすると *Veniere* のままでよい。ただ、本文の綴りなどから考えられる読み方にしたがって現代ふうに加綴れば、むしろ *Vénrière* とすべきだろう。（なお、図版Ⅱにあげた署名を見ると、二番目の e の字が é と書かれているようにみえるが、当時のこうした文書に現代のアクサン・テギュそのままの綴り字を使うことはまず考えられない。なにかの偶然で e の字の上にアクサン・テギュによく似た斜線のような跡がついたのだろう。）

(b) Daniel *du Gué* については、本人の署名（図版Ⅱを参照）を見たところでは、むしろ *Dugue* と読むほうがよさそうである。ただ、署名では同じ D の字を名前と姓とで異なった字体を用いていた（Daniel *dugué*）、*dugu* の綴り字ひとつひとつの間隔が少しずつ開いていたりするので、*du Gué* と読む可能性も否定はできない。

(c) *Bernard Dalanbour* は、協約書の本文に従えば *Léonard* と読むべきである。ただ念のために言えば、こうした書類の本文は公証人ないしは書記が書いたもので、本人の署名とは綴りが異なる場合がよくあるので、人名の正確な綴りを知るうえでは必ずしも決め手とはならない。よい例がこの *Dalanbour* で、本文には *Dallembourg* と記されているが、本人は *Dalanbour* と署名しているのである。このように、本人の署名がある場合には、それを尊重すべきことは明らかだろう。ただ、彼の姓はこうして確認できたわけだが、名前の方はあいにく署名には記されていないため、この文書だけからは *Léonard* に間違いはないとはまだ断定できない。とはいえ、綴りの若干の違いならともかく、名前そのものを公証人が聞き違えて書いたとは想像しにくい。*Léonard* と *Bernard* とでは発音もかなり異なるからである。

だが、*Dalanbour* の名を *Léonard* と断定してもさしつかえないことを示す文書が実は別にあったのである。パリの国立古文書館に収められている 1615 年 10 月 22 日付の劇団協約書（未

刊資料) がそれで、アラン・ハウによれば、この文書に名前があげられている俳優たちのなかに *Léonard Cutin, dit d'Alambourg* と彼の妻 *Marguerite Dugoy* の名前が記されているとのことである⁽¹²⁾。この *d'Alambourg* がわれわれの問題にしている *Dalanbour* と同一人物であることはまず間違いはない。綴りの多少の違いが問題にならないことはすでに述べたとおりである。また、ハウが推測しているように、彼の妻の *Marguerite Dugoy* は *Daniel du Gué (= Dugué)* の血縁ではないかと思われる⁽¹³⁾。なお *oy (= oi)* という綴りの発音は、当時は [e] [we] [wa] のあいだで揺れ動いていたことを付け加えておこう。

それでは何故ルベグは *Dalanbour* の名前をあえて *Bernard* としたのだろうか？ それは彼がフランセンの研究《オテル・ド・ブルゴーニュ座に関する未刊資料》⁽¹⁴⁾ をふまえたためと思われる。フランセンは次のように述べている。

...en 1615, le nommé *Bernard Dalembourg*, comédien, vint occuper avec 《 ses compagnons commédiens français 》 la salle de l'Hôtel qu'il louait du 16 septembre 《 jusques au jour Saint-Michel ensuivant vingt-neufiesme du présent mois 》, moyennant la somme de 100 livres tournois, payable en deux termes⁽¹⁵⁾ .

この *Bernard Dalembourg* とわれわれが問題にしている *Léonard Dalanbour* とがどういう関係にあるのかは不明だが、ルベグはこの両者を同一人物と考え、名前についても *Bernard* を採用したのだろう。勿論その時点では、ルベグはハウが紹介している文書の存在を知らなかった。だがそれにしても、いかにも関係のありそうなこの二つの名前が、しかも時期を接して (1615年の9月と10月) パリの公証人の文書にあらわれるという事実には、非常に興味深いものがある。研究が進めば両者の関係も明らかになるかもしれないが、いまは取り合えず、この二人はどちらも別人と見たほうがよいとだけ言っておこう。

なお参考までにふれておくと、パスキエは次のように指摘している。

Aux fêtes de l'entrée de la reine-mère à Angers, en 1620, figurent des 《 joueurs de viollon 》, parmi lesquels ce *Léonard d'Allembour* (Arch. munic. d'Angers, CC14)⁽¹⁶⁾ .

だが、この *Léonard d'Allembour* と今問題にしている *Léonard Dalanbour* とが間違いなく同一人物であるかどうかは、まだ確認できずにいる。

(d) *Claude Piton* は *Dugué (du Gué)* の妻とみるべきである。協約書の本文を見ると *Danyel du Gué sieur de la Chesnaie* で終わる行と、*et Léonard Dallembourg* で始まっている行の間に、書込の形で *Claude Piton sa femme* と記されている。とすればこれは

...*Danyel du Gué (= Daniel Dugué) sieur de la Chesnaie et Claude Piton sa femme, et Leonard Dallembourg (= Dalanbour)*

と読むべきだろう。それに *Léonard Dalanbour* には *Marguerite Dugoy (Dugué?)* という妻がいることは先にふれたアラン・ハウの研究によっても明らかにされているのである。

さて、ここでもう一度、前にあげたパスキエの論文の補遺（ルヴロンの解説）に基づいた読み方の部分を見直していただきたいが、ルヴロンの解説の明らかな誤りと指摘できるのは以下の点である。

1. Jacques Robineau と de la Bretonnière とは別人ではなく、同一人物の別名を後にあげたものである。
2. Fleury と Jacault は、別人として切り離すのではなく、Fleury Jacault という一人の人物と読まねばならない。しかもこの Fleury Jacault と Montfleury とは同一人物である。
3. Danyel du Gué (= Daniel Dugué) と La Chesnau (La Chesnaie と読むほうが正しい) も同一人物である。

何故ルヴロンはこうした誤りを犯したのか？ 私が原資料を閲覧した際に貴重な助言をいただいたメヌ・エ・ロワール県立古文書館のサラザン氏によれば、*sieur* という語を意味する略字をまったく知らなかったためである、とのことだ。そう思って問題の個所を読むと、たしかに納得がゆく。ただルヴロンの名誉のために一言付け加えておくと、彼の解説はこの *sieur* という語の読み方以外ではほとんど問題がない。1933年当時は彼はまだ26～7歳の若さで⁽¹⁷⁾、たぶん経験が浅かったのと、17世紀演劇に関しては特に専門家ではなかったために、こうした読み違いをしてしまったのだろう。

以上問題点を指摘してきたが、俳優名が列挙された個所を改めて読み直すと以下ようになる。（綴りは協約書本文のままとする。）

...Jacques Robineau sieur de la Bretonnière, Fleury Jacault sieur de Montfleury et Collombe Vesnière sa femme, Danyel du Gué sieur de la Chesnaie et Claude Piton sa femme, et Léonard Dallembourg, tous comédiens ordinaires du Roy...

そしてこれを、本人の署名から確認できる綴りはそれを採用した上でリストにすると、次のようになる。（イタリック体は本人の署名による綴りを表わす。）

1. Jacques *Robineau*, sieur de la Bretonniere
2. Fleury *Jacquault*, sieur de Montfleury
3. Colombe *Veniere* [⇒ *Vénière*], femme de Fleury Jacquault
4. *Daniel Dugué* [ou *du Gué*], sieur de la Chesnaie
5. Claude Piton⁽¹⁸⁾, femme de *Dugué*
6. Léonard *Dalanbour*

なお、この劇団の座長はこれまでずっと Fleury Jacquault であるとされてきたが、この類の文書では俳優たちの名前を列挙する場合、まず座長の名前から始めるのが通例である。常識的に考えてもこれは当然のことといえよう。とすれば、この一座の座長はむしろ Jacques Robineau とみるべきであろう。（Jacques Robineau の名前は他の個所でも最初にあげられている。）

さて、こうして6人の俳優について原資料をもとに確認作業を終えたわけだが、この結果をふまえ、モングレディアンとロベールの『17世紀フランス俳優事典』⁽⁹⁾の関係箇所を次のように訂正したい。(なお、イタリックの部分か訂正もしくは新たに加わる事柄である。)

p.16 ALEMBOURG (d'), v. DALEMBOURG ⇒ ALEMBOURG (d'), v. DALANBOUR (Léonard) et DALEMBOURG (Bernard).

新項目 DALANBOUR (Léonard CUTIN, dit). Il appartient à la troupe de Jacques Robineau, dit La Bretonnière (acte d'association du 19 août 1603, Angers, Arch. dép. Maine-et-Loire, 5E5, 93; 180; Rev. Hist. Th., 1948-1949, 292), puis à la troupe de Valleran le Conte, avec sa femme Marguerite Dugoy (acte d'association du 22 octobre 1615, Rev. Hist. Th., 1981, I, 18-19 et 24).

新項目 DALANBOUR (Marguerite DUGOY, femme de Léonard CUTIN, dit). Troupe de Valleran le Conte, avec son mari (acte d'association du 22 octobre 1615, Rev. Hist. Th., 1981, I, 18-19 et 24). Elle est peut-être une parente de Daniel Dugué, dit La Chesnaie.

p. 65 DALEMBOURG (Bernard ou Léonard) ⇒ DALEMBOURG (Bernard). Chef de troupe, il signe le 15 septembre 1615 un bail à l'Hôtel de Bourgogne, valable jusqu'au 29 septembre (103, 340; 233).

[従来の文言の一部は新項目 DALANBOUR (Léonard CUTIN, dit)に移し、残りの部分も若干修正。]

p. 65 DALEMBOURG (Claude PITON, femme de Bernard ou Léonard) = 削除

新項目 DUGOY (marguerite), v. DALANBOUR (M^{lle}).

p. 84 DUGUÉ (Daniel), v. LA CHESNAYE ⇒ DUGUÉ [ou DU GUÉ] (Daniel), v. LA CHESNAIE.

p.114 JACOB (Fleury) ⇒ JACQUAULT (Fleury), v. MONTFLEURY.あるいは JACOB (Fleury), v. JACQUAULTとした上で、新項目 JACQUAULT (Fleury), v. MONTFLEURY を設ける。

新項目 LA BRETONNIÈRE (Jacques ROBINEAU, dit). Chef de troupe à Angers (acte d'association du 19 août 1603, Angers, Arch. dép. Maine-et-Loire, 5E5, 93; 180; Rev. Hist. Th., 1948-1949, 292).

p. 117 LA CHESNAYE (Daniel DUGUÉ, dit) ⇒ LA CHESNAIE (Daniel DUGU [ou DU GUÉ], dit). Troupe de Jacques Robineau, dit La Bretonnière (acte d'association du 19 août 1603, Angers, Arch. dép. Maine-et-Loire, 5E5, 93; 180; Rev. Hist. Th., 1948-1949, 292); troupe des 《Loyaux Bravelettes》, Hôtel de Bourgogne, juillet 1609 (233).

新項目 LA CHESNAIE (Claude PITON, femme de Daniel DUGUÉ [ou DU GUÉ], dit). Elle est avec son mari dans la troupe de Jacques Robineau, dit La Bretonnière (acte d'association du 19 août 1603, Angers, Arch. dép. Maine-et-Loire, 5E5, 93; 180; Rev. Hist. Th., 1948 -

1949, 292).

p. 119 LA FONTAINE (Colombe VENIER) ⇒ LA FONTAINE (Colombe VÉNIÈRE, femme de : 1° Fleury JACQUAULT ; 2° Etienne RUFFIN, dit). Soeur de Marie Venière, Colombe Venière est, avec son premier mari Fleury Jacquault, à Angers en 1603, à trois quarts de part, dans la troupe de Jacques Robineau, dit La Bretonnière (acte d'association du 19 août 1603, Angers, Arch. dép. Maine-et-Loire, 5E5, 93 ; 180 ; Rev. Hist. Th., 1948-1949, 292) ; remariée à Etienne Ruffin... [以下従来の文言と同じ]

新項目 MONTFLEURY (Fleury JACQUAULT, dit). Il est dans la troupe de Jacques Robineau, dit La Bretonnière (acte d'association du 19 août 1603, Angers, Arch. dép. Maine-et-Loire, 5E5, 93 ; 180 ; Rev. Hist. Th., 1948-1949, 292), épouse Colombe Venière, qui devait se remarier avec Etienne Ruffin, dit La Fontaine (Rev. Hist. Th., 1948-1949, IV, 292-294). Il est avec elle en 1611 à Toulouse dans la troupe de François Vautrel, mais « ... ledit Jacob (sic) s'en est distrait pour être homme libertin... et n'ayant moyen de nourrir et entretenir sa dite femme, l'aurait délaissée en ladite compagnie où elle aurait vécu et gagné sa vie du mieux qu'il lui aurait été possible ». Fleury Jacquault fait un procès à Vautrel et à ses compagnons, saisit leurs meubles, réclame sa femme. Il obtient contre eux deux arrêts du Parlement de Toulouse, le 28 novembre 1611 et le 12 août 1612. Ils seront réhabilités par lettres du 14 septembre 1613 (32, 279 ; 71). Fleury Jacquault serait probablement le père de Zacharie Jacob. [文言の大部分は従来の JACOB (Fleury) の項目にあったものを用いたが、最初と最後の物分に修正を施した。なお最後の部分の修正に関しては後述。]

p. 171 PITON (Claude), v. DALEMBOURG (M^{lle}) ⇒ PITON (Claude), v. LA CHESNAIE (M^{lle}).

p. 203 VENIER (Colombe), v. LA FONTAINE (M^{lle}) ⇒ VÉNIÈRE (Colombe), v. LA FONTAINE (M^{lle}).

なお、これらの修正に関連して、人名、夫婦・血縁関係、日付等を訂正すべき項目がほかにもでてくるが、あまりに煩雑になるためここでは省略する。

ここで Fleury Jacquault と Zacharie Jacob (17世紀半ばにオテル・ド・ブルゴーニュ座で活躍した有名な Montfleury) との関係について若干補足しておきたい。エミール・カンパルドン²⁰⁾以来、Fleury Jacquault (これまで一般に Jacob とされていたが、本人の署名に従い Jacquault とすべきである) は Zacharie Jacob の父親とみなされてきた。ただ、二人の血縁関係をはっきり証明する証拠は今まで発見されていない。同じ舞台名、アンジュー地方との関わりなど、いくつかの状況証拠をもとに親子であろうと推測されているわけだが、確証がない以上、断定的な言い方は避けるべきだろう。

ところで二人の姓が——発音はきわめて近いのだが——綴りを異にしている点はどう考えたらよいのか？　メヌ・エ・ロワール県立古文書館のサラザン氏によれば、アンジュー地方に Jacob という姓の名家があったという。だからもしも Fleury が実際に Jacob という姓だったならばはっきりそう名乗っていたはずだ、とのことである。

だがカンハルドンが発見した文書（1613年9月14日付）には Fleury Jacob と記されている²²。ただこの文書にはあいにく本人の署名はない。書記が聞き違えたのだろうか？　あるいはアンジューから離れた土地では、勝手に名家の姓を借用して「家柄」を誇ったのだろうか？　それとも本当に Jacob 家の一族なのだが、役者稼業に身を落とした身を恥じて地元では名をはばかり、よその土地でだけ本名を使ったのだろうか？　どれが真実か明らかではないが、おそらく「家柄借用」だったのではなかろうか。

Zacharie の場合にもたぶん同じようなことが言えるだろう。「伝説」によれば、彼はアンジュー地方の名家の生まれで、立派な教育を受け、ギーズ公の小姓にもなったが、芝居に夢中になり、ついには出奔して旅役者の一座に身を投じたということだ²³。彼自身は Zacharie Jacob と署名している²³。「家柄」を飾るためか、あるいは事実なのか、それとも——もっと空想をたくましくすると——父親か誰かにそう言われたために自分でも信じ込んでいたのだろうか？　いずれにせよ、彼の生い立ちには不明な点が多く、はっきりしたことは言えない。

ところで、これまではふれなかったが、アンジェの文書には既にあげた6人の俳優の他に、準座員もしくは見習役者4人の名前も記されている。本文中に記された順に名をあげると Toussaintz Dallibert, Julien Bedeau, Callais Anquetif, François Bedeau の4人である。うち Dallibert と Anquetif については特筆すべきことはないが、Julien Bedeau と François Bedeau の兄弟は、後にそれぞれ Jodelet, L'Espy の芸名で活躍することになる²⁴。しかし彼らについて語る余裕は残念ながらもうない。別の機会を待つことにする。

文書を読むと当時の旅役者一座の様子が伝わってくる。が、それについてもまた別の機会に述べることにする。文書を転写して補遺にあげておいたので、関心のある方はお読みいただきたい。

埃だらけの古文書をひっぱりだして、まさに重箱の隅をつつくようなことを細々と述べてきたわけだが、フランス17世紀演劇史研究に携わるうちに目にとまり、気になって調べたことを覚書ふうにまとめてみたらこんな具合になった。既に公表され、訂正もかなりの程度まで施されていた文書ではあるが、あらためて訂正・確認すべき点がいくつか明らかになったので、こうして発表した次第である。なにかの参考にしていただければ幸いである。

原註

- (1) Emile Pasquier, 《Les Archives notariales d'Angers》, in *Mémoires de la Société d'agriculture, sciences et arts d'Angers*, 6^e série, t. VIII (1933), pp. 5–22. Appendice III. Acte d'association des comédiens du roi, le 19 août 1603 à Angers (pp. 20–22).
- (2) *Ibid.*, p. 20, n. 1.
- (3) Cf. *Who's who in France 1985–1986*, Paris, Lafitte, 1985.
- (4) Jacques Levron, 《Les origines des Comédiens du Roi》, in *Mercure de France*, n° du 1^{er} janvier 1949, pp. 91–96.
- (5) Raymond Lebègue, *Compte rendu de l'article de Levron*, in *Revue d'histoire du théâtre*, 1948–1949, IV, pp. 292–294.
- (6) *Ibid.*, p. 292, n. 1.
- (7) *Ibid.*
- (8) *Les Archives notariales d'Angers*, p. 20.
- (9) *Les origines des Comédiens du Roi*, p. 92.
- (10) *Ibid.*
- (11) *Compte rendu* déjà cité, p. 292.
- (12) Alan Howe, 《Couple de comédiens au début du XVII^e siècle : Le cas de Nicolas Gasteau et Rachel Trépeau》, in *Revue d'histoire du théâtre*, 1981, I, pp. 17–25. Voir notamment pp. 18–19 et aussi n. 22 de la page 24.
- (13) *Ibid.*, n. 22 de la page 24.
- (14) J. Fransen, 《Documents inédits sur l'Hôtel de Bourgogne》, in *Revue d'histoire littéraire de la France*, juillet–sept. 1927, pp. 321–355.
- (15) *Ibid.*, p. 340.
- (16) *Les archives notariales d'Angers*, p. 20.
- (17) *Who's who in France 1985–1986*によれば1906年9月生まれとある。
- (18) Claude Piton は「サインができないとの申し立てあり」と協約書の本文末尾に記されており、実際に彼女の署名はない。
- (19) Georges Mongrédien et Jean Robert, *Les comédiens français du XVII^e siècle. Dictionnaire biographique*, 3^e édition revue et augmentée, Paris, Editions du CNRS, 1981.
- (20) Emile Campardon, *Les comédiens du Roi de la troupe française*, Paris, 1879. Cf. Appendice N° IV, Comédiens du Roi réhabilités (pp. 279–280).
- (21) *Ibid.*
- (22) 例えば Lemazurier, *Galerie historique des acteurs du théâtre français*, Paris, 1810, tome I,

pp. 424 et sqq. を参照のこと。

(23) Cf. S. Wilma Deierkauf-Holsboer, *Le Théâtre de l'Hôtel de Bourgogne*, tome II, Paris, Nizet, 1970, Appendice N^{os} 11 et 15.

(24) なお、モングレディアンとロベールの『事典』（註19参照）におけるこの4人に関する項目についても、1603年アンジェにかかわる記述は次のように改めるべきだろう。

Troupe de *Fleury Jacob*, Angers, 1603 (Rev. Hist. Th., 1948-1949, p. 292). = Troupe de *Jacques Robineau, dit La Bretonnière*, Angers, 1603 (*Arch. dép. Maine-et-Loire*, 5E5, 93; 180; Rev. Hist. Th., 1948-1949, p. 292).

補遺 Acte d'association des comédiens du roi, le 19 août 1603, à Angers

Mardy apres midy dix neufiesme jour d'aoust mil six cens trois.

Devant nous Guillaume Guillot notaire royal Angers et tesmoings cy après nommez furent présenz et personnellement establys chacuns de Jacques Robineau sieur de la Bretonnière, Fleury Jacault sieur de Montfleury et Collombe Vesnière sa femme, Danyel du Gué sieur de la Chesnaie et Claude Piton sa femme, et Léonard Dallembourg, tous comédiens ordinaires du Roy estans de présent en ceste ville, lesdites femmes de leursdits marys suffisamment auctorizées, quant a ce lesquelz deüment subzmis et obligez respectivement etc confessent avoir ce jour d'huy faict et font entre eulx et autres cy après nommez l'assotiation et assemblée aux condicions, charges, clauses et conventions qui s'ensuivent, cest á savoir qu'ils se sont du jour d'huy assemblez et assotiez ensemblement jusques au jour de caresme prenant prochain pour de compagnie aller et se transporter ensemblement en les villes, lieux et endroitz qu'ilz adviseront entre eulx pour représenter et jouer commédies, tragédies, pastoralles et autres jeuz selon qu'ils verront bon estre. Quand aux fraiz qu'il conviendra et sera requis et necessaire de faire soit pour louages de jeuz et maisons, pour la conduitte et voitture de leur bagage et autre despence et fraiz, seront les premiers prins, levez et hostez sur ce qu'ils recepveront. Pour les deniers qu'ilz pourront recepvoir... seront, après lesdits fraiz pr allablement levez et hostez, partagez entre tous lesdits assotiez cy dessus. Scavoir est que lesdits Robineau, Jacault, Dugué et Dallembourg en prendront chacun d'eulx une part par esgalle portion et quand auxdites femmes elles prendront chacune d'elles trois quartz d'une desdites parts, fors ladite Vesnière qui ne prendra que demye part jusques

à d'huy en ung mois prochain seullement, et, ledit temps d'ung mois passé, prendra lesdits trois quartz. Et lors que lesdites parties représenteront pièze où il ne sera requis y avoir que une femme, lesdites Piton et Vesnière représenteront une ung jour et l'autre l'autre jour; et quand il conviendra plusieurs(?) desdites femmes représenter le (?) mesme jour la mesme tragédie, ladite Piton représentera les premiers rolles et ladite Vesnière les secondz, lorsqu'elles scauront lesdits roolles. Sinon où ladite Piton ne pourroict sy promptement aprendre lesdits roolles lorsqu'il seroit requis et que ladite Vesnière les aprist plus tost, en ce cas ladite Vesnière représentera les premiers. Et pour le regard de Toussaictz Dallibert et Jullien Bedeau, Callais Anquetif et François Bedeau qui sont en ladite troupe seront nourriz entretenuz et desfrayez par lesdits assotiez à commungs fraiz et n'auront aucun gaigne ne part quelque fut, sinon lesdits Dallibert et Jullien Bedeau que, le jour de caresme prenant prochaing venu, prendront chacun demye part pour le temps qui pourra lors rester à escheoir seulement, auquel jour de caresme prenant sera baillé, aux despent commungs desdits assotiez, ausdits Dallibert et Jullien Bedeau chacun ung habit pour leur usage et rescompance du service qu'ilz pourroient faire en ladite assotiation jusque audit jour. Au surplus se garderont les assotiez toutte loyaulté, fidellité et amitié entre eulx, procureront leur gaing quelque fut, esviteront les pertes et dommages à leur possibilité, sans se faire ne dire par soy, ne par personne interposée, ne souffrir estre fait aucun tort, dommage, injure ne desplaisir; que si aucuns leur est fait, tascheront ensemble les faire réparer. Au cas qu'il intervienne entre eulx quelque querelle ou débat seront paciffiez et accordez par les autres de ladite compagnie avec le plus de dousseur et amitié que fera se pourra; ce qu'ilz ont promis et jur, stippull et accepte, dont ilz en sont demeurez d'accord respectivement obligez et obligent leurs corps à tous royaulx ... Sy fut fait et passé audit Angers maison et présence de Mathurin(?) Le Jay sieur de la Verinière(?) et aussy en la présence de Jehan Gangneur orphevre et Michel Guillet demeurant à Angers; ladite Piton a dit ne scavoit signer.

Robineau

Dalanbour

Jacquault

Daniel Dugué

Le Jay

Callais Anquetif

Gangneur

Veniere

Guillot

1
In Commedia

Societe

19. aoust 1603

Handwritten signatures and text at the top of the page, including names like "M. de..." and "M. de...".

Main body of handwritten text, including names like "M. de...", "M. de...", and "M. de...".

Lower section of handwritten text, including names like "Robineau", "Daniel", "Callan", "Vingneur", "Pernerey", and "Mullot".